

グループワークの目標と進め方

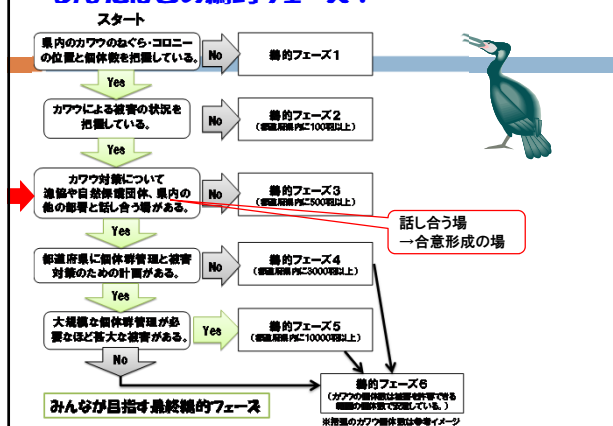


長岡技術科学大学
工学研究科生物機能工学専攻
准教授 山本 麻希
umiushi@vos.nagaokaut.ac.jp

まずは鵜的フェーズ診断をする

- フェーズ1
→ ねぐら・コロニーの発見、生息数調査
- フェーズ2
→ 被害量算定(飛来数調査、胃内容物分析)
- フェーズ3
→ 合意形成会議(カワウ対策の課題解決を実施)

あなたはどの鵜的フェーズ？



とにかく一方的

とにかく自己主張



合意形成

多様な関係者が

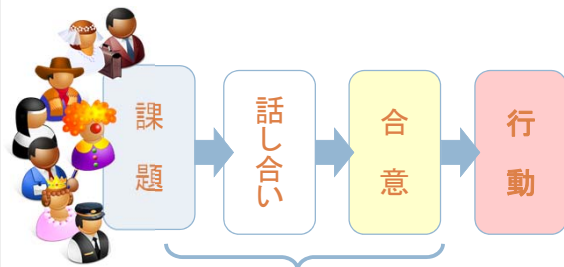
話し合いなどを通じて

各々の利害を顕在化させ

意見の一致を図る過程

利害関係者(ステークホルダー)

利害関係者
Stakeholder



Too
Bad

Very
Good

皆が無関心(あきらめ)で

深刻な対立が残る

当事者意識をもって

結果に納得して

前向きに行動できる

交渉の
最終目標

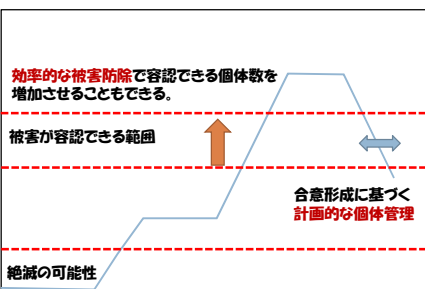
相互利益

Win-Win

良好な人間
関係の構築

個体数管理と被害対策に向けた 合意形成への道

カワウの
個体数



個体数を減少させるのが目標ではなく、
被害を減少させるのが目標

カワウ管理へのストリーム

学習会の実施

正しいカワウ対策の知識を共有してからスタート
することが大切。

データ取得
と地図化

鵜のフェースを利用しながらカワウの
増・コロニーの分布、被害の状況を調
べ、**地図化**する

★
ワークショップ
による対策の作成

調査結果の地図を見ながら
鵜的ワークショップを行い、
実際に**行う対策**を立案する。

専門家の助言

対策の実施

対策の効果を検証するデータをとりな
がら実施。

見直し

評価データを元に来年度の対策の見直し

鵜的ワークショップに必要なもの

- 各グループに1つの机
- A2～A1サイズに印刷された地図
- カワウの増・コロニーと漁業被害の情報
- 油性ペン(カラフルなもの)
- 付箋
- 熱い情熱！
- 美味しい珈琲♪



鵜的ワークショップは単なる会議 じゃない！

社会学的な知見に則り、行われる合意形成のため
の会議

- ➡ □ 基本ルール
- アイスブレイク
- 役割分担きめ
 - 書記(模造紙へのまとめの記録をする)
 - 発表者(グループの進行役を兼ねる)
- ファシリテーター
- タイムキーパー

3つの基本ルール

- A. 意見の違いを認め、否定的な発言をしない(すべてのアイデアは有効)
- B. 権威や多数意見にひきずられない(組織的、個人的な関係は無視)
- C. アイデアは質より量(全員参加)

鵜的ワークショップは単なる会議じゃない!

社会学的な知見に則り、行われる合意形成のための会議

- 基本ルール
- □ アイスブレイク
- 役割分担きめ
 - 書記(模造紙へのまとめの記録をする)
 - 発表者(グループの進行役を兼ねる)
→ファシリテーター
 - タイムキーパー

アイスブレイクの効用

- 議論が活発になる
- 話をしやすくなる
- 突拍子もないアイデアが出る

⇐ 話をする“**雰囲気**”をつくることが重要



鵜的ワークショップは単なる会議じゃない!

社会学的な知見に則り、行われる合意形成のための会議

- 基本ルール
- アイスブレイク
- □ 役割分担きめ
 - 書記(模造紙へのまとめの記録をする)
 - 発表者(グループの進行役を兼ねる)
→ファシリテーター
 - タイムキーパー

鵜的ワークショップの進め方

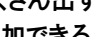
- 課題の設定
 - 取り組むべき課題を設定する
- 役割の決定
 - リーダーと記録係とタイムキーパーを決定する
- **発散思考:ブレインストーミング**
 - 自由奔放に、アイデア、意見を出し合う
- **収束思考**
 - 記録をもとに分類、補足する
- 評価
 - 実現可能性や重要性、効果性などの観点から出されたアイデアを評価する。

鵜的WS STEP 1 地図作り

- カワウ地図の作成
 - 春～夏、秋～冬2枚の地図を用意する。
 - それぞれの季節ごとにカワウのねぐら・コロニーの場所におおよそその個体数がわかるように地図に記載する。
 - ねぐら・コロニーから10～20kmの円を描く。
 - それぞれの地図に被害のある漁協の管内、被害のある魚種を記載する。



課題だし(ポストイットの活用)

- 課題をできるだけたくさん出す。
 - 話が苦手な人でも参加できる
 - 記録保存が楽になる
 - 議論の整理が楽になる
- 



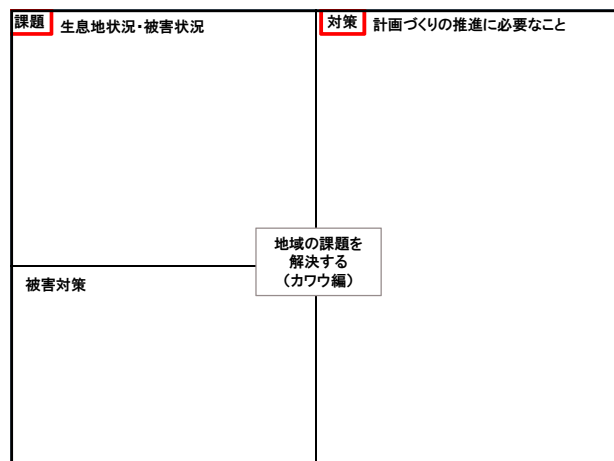
ブレストにおける4つの掟

- ❑ 判断・結論を出さない(結論厳禁)
- ❑ 粗野な考えを歓迎する(自由奔放)
- ❑ 量を重視する(質より量)
- ❑ アイディアを結合し発展させる(結合改善)

KJ法(収束の過程)

- 文化人類学者・川喜田二郎(東工大名誉教授)がデータをまとめるために考案した手法

こんな感じに
まとめていく

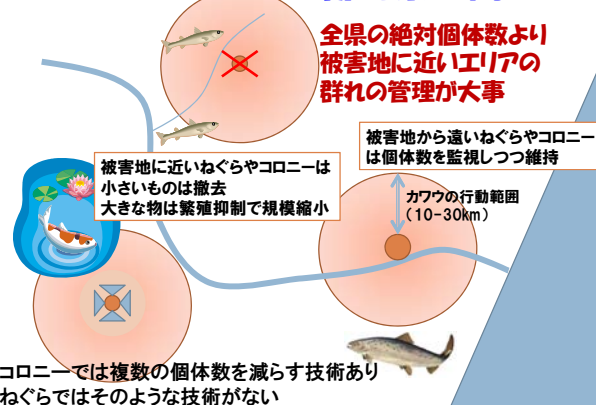


鵜的WS STEP2

生息・被害状況の課題を見つける

- 課題の洗い出し
 - 地図を見ながら、生息被害の状況についての課題をブレストで付箋にすべて書き出す。
- 洗い出し終了後、KJ法でみんなでまとめていく。
- ポイント！
 - ここではあくまでも課題を洗い出す。対策は考えない。

ケーススタディ-新潟県の例



鵜的WS STEP3 対策づくり

- 課題を解決する対策をプレストで付箋にすべて書き出す。
 - ○○のデータが足りない！
 - ○○の対策がうまくいってないので、先進地事例を学ぶ
 - ○○の対策費を特措法を取得して、組合員交代で実施する。
- もれなく、ダブリなくのために！
 - 情報、お金、人、体制の4つの観点から対策を考えていく！
- 洗い出し終了後、KJ法でみんなでまとめていく。
- ポイント！
 - ここでは様々な対策のアイデアを考え、まとめの際、良い案を絞っていく。
 - **あとで、対策がうまくいったかどうか検証するためのデータを一緒に取ることを忘れずに！**

さあ！みなさん！WSの時間です。

グループワーク

今日は1つのグループで各課題について
みなさんで考えていきましょう！

カワウとの共存を
目指して今できること
を考えて下さいね。

